

福井・大森鐘島遺跡

- 1 所在地 福井県丹生郡清水町大森字鐘島
- 2 調査期間 一九八一年（昭52）九月
- 3 発掘機関 福井県教育庁埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 仁科 章
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 七～十一世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大森鐘島遺跡は、福井市街地から南西へ約9km、東大寺領道守庄比定地より約5kmに位置している。木簡の発見はまったくの偶然であった。志津川の河川改修によって排土された土の中から多くの須恵器片とともに発見された。通報を受けた時は、川の中でもあるので、流れてきたものと考えたが現地踏査の結果、現在の河道は戦前につけ替えたものであり、遺跡の上を現在の川が流れそれを改修した結果出土したことが判明した。ところがこの河川改修とは別に、川に隣接する西側一帯の水田を土地改良する予定になっていたため



（福井）

多かった。遺跡の範囲は約一万㎡に及ぶものである。

遺跡の性格として、墨書土器や緑釉の耳皿等の出土から、一般の集落とは異った性格を持つものと考えられ、鐘島や明寺等の地名から、また墨書の真成から寺に関係するものとも考えられている。

8 木簡の积文・内容

「 是是人

☐ 梗梗梗 富通 通通
☐ 梗梗梗 相相相 是是是 是是是 是是是

(300)×23×5 019

(仁科 章)

梗梗梗 富通 通通
 梗梗梗 相相相 是是是 是是是 是是是 是是是